

昌平通信

平成22年2月5日第39号
編集・発行
昌平高校通信課程
いわき学習センター

後期単位認定試験



1月14日から16日までの3日間、東日本国際大学で後期認定試験が実施されました。インフルエンザが猛威を振るっている最中の試験ということで心配されていましたが、小雪が舞う中、皆さん元気に登校してくれました。肝心の試験ではどの科目も真剣に集中して取り組んでいました（写真参照）。お疲れさまでした。



救命救急講習



1月22、23日の二日間に分かれて、いわき平消防署にて救命救急講習が行われました。今回は救命処置のうち、心配蘇生法とAED（自動体外式除細動器）の使用法について学びました。人工呼吸2回と心臓マッサージ30回を繰り返し行い、必要に応じてAEDを使いました。説明をして下さった救急隊員の方によると、救急車要請から到着までの所要時間は平均約8分。その間、絶え間なく繰り返し心配蘇生を行い続けることで命が助かる可能性が高まるとのことでした。講習の最後には普通救命講習修了証も頂き、とても勉強になった1日でした。大切なことは、“必要な場合には勇気をもって一刻も早く応急手当を行うこと”だそうです。

ボーリング大会

1月29日、平ボウルにてボーリング大会が行われました。参加者は34名。3、4名程のグループに分かれて1~2ゲーム行いました。久々のボーリングという生徒も沢山いましたが、中には140を超えるハイスコアを叩き出す男子生徒もいました。また、一ケタのスコアに落ち込む女子生徒も見受けられましたが、みんな一生懸命に取り組み、充実した時間を過ごせました。

大勢でのイベントは
やっぱり楽しい!!



「先生、お元気ですか？」受話器のむこうに懐かしい声が弾む。今朝は霜が降りて、ことのほかの寒さである。冷やかな私の体内に熱い血がかけめぐる。電話は広美さんからである。かつて私の勤めた高校の剣道部の教え子であり、もう五十歳になったはずである。高校から警視庁の警察官になり、退職した今は、若い警察官達の寮母として働いている。今朝もたぶん朝食の準備をし、退職した今は、若い警察官達の寮母として働いたのであろう。

彼女の高校生活は文武に情熱を燃やした日々であった。関東大会やインターハイへの出場等、その活躍ぶりは枚挙にいとまが無いが、進学校において、運動部の生徒達は文武の両立に大変な努力を強いられる。彼女は主将でもあり、その苦労たるや想像に難くない。進路の選定に当り、彼女は国立大の体育学部を目指していた。「そうか、君は体育学部を受験したいんだね。」と言って、あれこれ思いめぐらしている私を見て、「先生、私、やはり国立大は無理なんですね。」と言うので、「いや、そんなことはないよ。」とことばを返したが、彼女は無念の表情を残して帰って行った。

翌日の放課後に再び彼女を呼んだ。警視庁の募集要項を見せるためだった。私は剣道部に一年生の時から将来の進路を考えながら生活するよう指導していた。かねてから私は広美さんには警察官の仕事が適すると考えていた。彼女は容姿端麗であり、剣道衣姿はとて凛々しく、試合会場ではいつも観衆の視線を吸っていた。そんな外見的なことだけでは無い。彼女のつづる剣道日誌の豊かな表現力、稽古中の妥協を許さぬ厳しき、試合中に見せる冷静な判断力、後輩に対する包容力、そして周囲を明るくする振舞から推して警視庁を受験させ、婦人警官となつた姿を見ることは、私のささやかな夢でもあった。募集要項を見つめる広美さんの瞳が一瞬輝いた。「先生、とても素敵なお仕事だと思います。私、頑張りつめます。」彼女は嬉しそうに要項を抱いて出て行った。そして彼女は涙ぐみ、「先生は、私の誕生した年から教師をしてらっしゃるから、もう五十年にもなりましたね。」昔、彼女にそんなことを話した記憶が蘇った。「今度お会いしたら、そのお元気な秘訣を教えてください。」未熟だった頃の私の進路指導、本当に彼女が幸せだったのだから・・・。

《2月行事予定》

5日 2月HR



8日 原町学習センターHR

10日 新規高卒者就職面接会
(いわきワシントンホテル)

17日～19日
卒業旅行(沖縄)



進路指導部より



3年生にとっての高校生活もいよいよ残り1ヶ月半となりました。昌平高校通信制課程の卒業生として、胸を張って社会に巣立つためにも残りの高校生活を充実したものにしてください。

また、今年の新規高卒就職希望者をとりまく状況はとても厳しいものとなっています。現時点でのいわき市内の就職未内定者数も多数おり、卒業までに就職が決まらない生徒が引き続き多数生じる事態が懸念されている程です。本校も例外ではなく、就職希望者には大変厳しい状況です。しかし、どうか諦めないで下さい。何度でも何度でもチャレンジして下さい。内定を頂くことはそう簡単なことではありませんが、諦めなければチャンスも巡ってくるはず。残りわずかな高校生活、就職活動に限らず、全力で何かにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか？